



石倉橋下の釣人 Fishing under the Ishikura bridge ...

© photo by Isao Yoshida

本年度の方針

第四十八代会長 吉島 一 良



テーマ 「今こそ奉仕の時！」～50周年に向けて活力あるクラブ・品位あるクラブを維持しよう～

飯能ロータリークラブ第48代会長として一言ご挨拶を申し上げます。

飯能ロータリークラブは昭和39年に創立され、3年後には50周年を迎えることとなりました。今年になって正会員にチャーターメンバーはいなくなりましたが、歴代の会長・幹事が中心となって築かれた伝統は今も生き続けております。私も飯能らしさを引き継ぐべく、皆様とともに1年間頑張っていきたいと考えております。

2011 2012年度国際ロータリー会長カルヤン・バネルジー氏(インド出身)のテーマは「こころの中を見つめよう、博愛を広げるために」であり、「家族」「継続」「変化」の3点を強調事項として掲げました。立原ガバナー(川越RC)は地区のテーマを

『Smart Rotaryを探して』～継続できるロータリークラブとは～

『ガンバレ！日本のロータリークラブ』と致しました。

さて、今年の3月11日に大震災が発生するとともに原子力発電所の事故も重なり、被災地ばかりでなく日本全体が苦境に立たされています。改めて東日本大震災で亡くなられた方々への冥福をお祈り申し上げますとともに、被災された皆様に心よりお見舞い申し上げます。

このような状況のなか、飯能ロータリークラブにおいては、新年度は50周年に向けて組織を見直すとともに、50周年をともに迎えようという合言葉のもと、各会員のベクトルを一致させていきたいと考えております。

1. 50周年に向けて60人体制に戻す。

大変厳しい現状ではありますが、奉仕の機会として知り合いを広めるため、地区の目標でもあります「+1」を確実に達成し、50周年では60人で臨みたいと考えております。

2. 職業の品位を高める。

正会員にチャーターメンバーがいなくなった今、綱領を改めて見直すときでもあります。事業および専門職務の道徳的基準を高め、その業務を品位あらしめることを目指したいと考えており、そのための例会も開催します。

3. 職業奉仕を通じて、奉仕を実践し奉仕の輪を広める。

我々企業に携わるものは、日々の仕事を通じて奉仕を実践し奉仕の輪を広めることが大事かと思えます。年に数回の社会奉仕も大事ですが、ひとりひとりの職業を通しての奉仕こそロータリーの原点でもあります。

4. 国際交流に努める。

米山留学生はロータリーの花的存在でもあり、50周年に向けて受け入れに努力します。

以上の4点を本年度の強調事項とし、立原ガバナーの言われるように『明るく！楽しく！美しく！』を心情として1年間過ごすとともに、次年度へつなげていければと考えています。会員皆様の協力を重ねてお願い申し上げます。

退任に当たって

第四十七代会長 半田 武



平成23年3月11日発生した東日本大震災により被害を受けられた方々に心よりお見舞い申し上げます。
2010-11年度レイ・クリングスミスRI会長は、「地域を育み、大陸をつなぐ」をテーマとされ、西川武重郎ガバナーは、地区方針として、幸せな未来を創るために、「利他の心で行動しよう」であった。

上記を受け飯能RCの方針として、次の3点を重点項目とした。

・義 親睦の充実 ・出席率の向上

会員及び事務局の皆様方の御協力、御指導、御鞭撻により期初の目的がほぼ達成出来、感謝の念で一杯である。

思い出すままに以下記します。紙面の都合で全部を書けないことをお許し下さい。

CLP導入後3年目に当たり、飯能RC定款、細則、内規の整合性を図った。

平成22年3月17日、当クラブ45周年記念式典に韓国東清州RC会員の出席を得た。答礼に11月25日から4日間、3夫人ともども8人で行った。同伴は初めてのことであり、大変な歓迎を受けた。訪韓2日前の23日、北朝鮮から延坪島(ヨンピョンド)への突然の砲撃があり、一抹の不安を抱え乍らの出発ではあったが、現地は冷静であり、安堵した。

4月から例会場がマロウドインに移り、4か月目でもあり、当初何かと、とまどいがあったものの関係者の智慧と工夫と御協力により改善された。

12月15日、クリスマス例会が、マロウドインで初めて行われ、細田徳二郎名誉会員夫妻を始め大勢の参加のもと盛会裏に終了出来た。

23年3月5日、IMが所沢市ミューズで行われ、お陰様で当クラブの出席が一番多かった。寸劇「ディアポーン街の奇蹟」を西川G、石川PGを始め各クラブ会長が俳優となり、大変和やかに終了出来た。因に小生は洋服生地商ハイラム・ショウレーであった。

3月11日、岩手県沖を震源とする大地震が発生し、大津波と原発事故という未曾有の大災害に見舞われた。ガソリン不足と節電等を考え、定款61Cにより、例会取り止めと例会開催時の昼食代の節約、シャンデリアの消灯、マイク及びBGMの不使用、卓話の省略等を実行した。大人気で47人の参加希望者を得ていた4月14、15日の飛騨高山春の例大祭への親睦旅行を時の状況に鑑み不本意乍ら中止した。

3月23日、東日本大震災の義損金を当クラブ50万円、東清州RC10万円(送金は日本円9万8千円)とを飯能市を通して日赤へお送りした。地区からの要請には直ぐに応じて10万円を送金した。

3月~5月の例会取り止め等により約145万円の義損金資金を捻出することが出来た。飯能市に東日本大震災により被害を受け避難されている23家族46人に対し、5月20日に1人当たり3万円の義損金を贈呈したいので、5月27日、市総合福祉センター迄来られるよう案内状を市地域福祉課長名とRC会長名の2通を同封し、市より発送した。

当日は、市長、副市長、福祉部長同席の上、19家族42名に一家族ずつ直接お見舞金としてお渡しした。身体の都合とか高齢とかの特別な事情で来られなかった4人には、後日市職員がお届けした。

受領者代表のお礼挨拶の後、全員から名前、出身地、故郷、現在の状況等を話してもらった。皆有難いとか地域の温もりを感じたとか感謝の言葉と共に、故郷のこと、現状のこと等を、時には涙し、時には口ごもり乍ら思いの程を語ってくれた。それにより同県とか故郷がごく近所であるとか、お互を初めて知ることが出来て、横の絆ができたようで、市長を始め関係者からとても感謝された。

大震災からの復興、原発事故の復旧は、早期には困難と思われるが、第2次世界大戦時の昭和20年3月10日夜、B29大編隊による空襲によって10万人が犠牲、広島、長崎への原爆投下を始めとする全国各地の主要都市の潰滅状態、関東大震災外、歴史上数多くの天災、人災から先人達はその都度立ち直ってきた。今回は広範囲で、しかも眼には見えない脅威にも曝されていて容易ではないが、必ずや立ち直るものと信じている。

結びに吉島次年度が素晴らしい年になることを念じて、会員並びに事務局の皆様へ感謝申し上げます。